

令和2年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立真田山幼稚園

令和3年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**<真田山幼稚園教育目標>**

「明るく、たくましく、心豊かな真田山っ子を育てる」

*健康で明るい子ども *自分で考える子ども *仲良く遊ぶ子ども

*人の話を聞く子ども

<真田山幼稚園の現状と課題>

落ち着いて活動できる子どもが多い。気付いたことなどを発言することはできるが、友達と意見や思いが食い違くと本心を言えず我慢することが多い。

平成28年度の自己評価、関係者評価の課題(教育課程の更なる充実・交通ルールの遵守・保護者アンケートのとり方の工夫)を基に下記のような観点で進めていく。

○生きる力の基礎となる、心情・意欲・態度を育て、自分のことを自分でできる力、友達のことを思いやる気持ちを身につけて、小学校生活へつなげていく。

○大阪市教育振興基本計画に基づき、就学前教育カリキュラムを参考に、新しい運営の計画を作成し、真田山幼稚園の教育課程及び月ごとの指導計画の見直しを行い、幼稚園教育の中の学びを明確にする。

○健康で安全な生活を送る習慣や態度を身につけるために指導の方法を工夫する。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

○地域・異年齢などと様々な交流を行い、教師や友達に親しみ、安心して過ごすことができるようにする取り組みや、子どもの育ちについて保護者に分かりやすく伝えることで、令和2年度の保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いも表現できるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして、教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。令和2年度の保護者アンケートで「自分で考え工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。

○年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、令和2年度の保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%以上にする。

【その他】

○色々な音やリズムに親しみ、教師や友達と音や音楽にふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**園の年度目標**

①目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け入れ合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いを表現できるようになった」の項目で肯定的回答が85%以上になるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**園の年度目標**

①就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。

②子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%にする。

【その他】**園の年度目標**

①色々な音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽に触れて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・定期的な園内委員会だけでなく、保育後などを活用し、その都度、各クラスの子どもの様子や友達関係、また支援のいる子どもへの援助の仕方など、共通理解し、全職員で常に連携できるようにしてきたことで、タイミングの良い援助や保育の工夫を行うことが出来た。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、密を避け、間隔を空けての活動をしてきたため、他学年との交流や友達との触れ合い遊びなど、例年通りに行うことが出来なかった。しかし子どもの安全を第一に考えながらも、誕生会や季節の行事の集い、また園庭で遊ぶ中での交流など、密を避けながらも交流する機会をもてるように、職員みんなで工夫し、意識してきたことで、子どもたちが関わり合う姿が見られた。年度末のアンケートでも、「他クラスや異年齢の友達と交流する中でお互いの思いを受け入れあったり、他者を思いやったりする気持ちが育ってきた」の項目で肯定的回答が92%であった。
- ・話し合いの機会を多くつくり自分の思いを伝える活動や、友達の話を聞く機会をもったことで、友達の思いに気づき、良いところを見つけて伝えるなど、受け入れ合える関係が育ってきた。年度末のアンケートの「幼稚園生活のなかで教師や友達に親しみ、安心して過ごすことで自分の思いを表現できるようになってきた」の項目では肯定的回答が96%であった。
- ・年度末のアンケートで「真田山幼稚園の教育や子どもの育ちが写真とともに掲示しているので分かりやすい」の項目で肯定的な回答が100%であり、保護者自身も幼稚園の取組に対して安心感をもっていることが分かる。
- ・臨時休業の間に「主体的に活動に取り組む子どもを育むための環境」について研修を行い、共通理解を図ってきた。また年間を通して、子どもの実態に合わせた園庭の環境などの工夫や毎月の掲示物の作成などを通して、教職員の意識も高まり、さらには幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムなども意識しながら教育活動を行うことができた。また、一人一人の子どもの様子やクラスの様子を共通理解してきたため、タイミングの良い援助ができ、興味や関心をもって主体的に活動できるような保育の工夫ができた。年度末のアンケートでは「環境にかかわる中で、探究心、好奇心、思考力の芽生えを培えるような保育内容の工夫により、自分で考え、意欲的に取り組むようになってきた」の項目で肯定的回答が97%であった。
- ・健康や体力面では、年間計画以上に体を動かす遊びに取り組むことができた。また、手洗いやマスクのつけ方なども子どもたち自身が意識して行えるように保健指導を行い、指導後も継続して取り組めるように、担任と連携し、その都度声をかけるなどするようにした。年度末のアンケートの「幼稚園での生活を通して、進んで運動遊びに取組、体を動かすことが好きになった」の項目では肯定的回答が100%という高い評価を得ることができた。
- ・行事を活用し、クラスの遊びを他クラスに知らせたり、季節の歌や遊びを園庭や園外保育で実際の自然環境に触れながら楽しんだりした。また、生活発表会での歌や楽器遊び、劇遊びなどを見合ったことで、刺激を受け合い、進んで歌を歌ったり、ダンスをしたり、楽器を鳴らしたりし、音楽を楽しむ姿が見られた。年度末アンケートの「いろいろな音やリズムに気づき、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、音楽に触れて遊ぶことを楽しむようになってきた」の項目で肯定的回答が99%であった。
- ・来年度も取組を継続する中で、状況に合わせて地域・保護者との連携を深め、安心できる環境の中で友達と思いを出し合い、思いやりのある子どもに育つようにしていきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け入れ合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いを表現できるようになった」の項目で肯定的回答が85%以上になるようにする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>子ども一人一人の実態や友達関係を把握し、全職員で共通理解をはかる。</p> <p>指標 月1回、子どもの様子や友達関係を情報交換する。</p>	B
<p>取組内容②【2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>安心して過ごし、相手の思いに気付いたり、お互いの思いを受け入れ合ったりできるような環境や保育内容を工夫する。</p> <p>指標 月1回、他クラス、異年齢で意図をもって交流し、その活動内容を工夫する。週1回、クラスや学年で思いや考えを出し合えるような機会をつくる。CAPの講習を受講する機会をつくる。（5歳児）</p>	A
<p>取組内容③【3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>活動のねらいや取組内容を分かりやすく写真やコメントで掲示したり、伝え方を工夫したりして保護者や地域の理解を得る。</p> <p>指標 月1回、活動の内容を分かりやすくまとめて、様々な方法で知らせる。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 学期に一回以上園内委員会を開いたり、普段から子どものその日の様子を職員間で話したりして、月一回以上子どもの実態や友達関係の共通理解に努めた。全職員で多面的に子どもたちを見ることで、一人では気付かないことにも気付くことができた。また、登園時に保護者から聞いた登園前の家庭での様子などを進んで担任に伝え、その後の関わり方に役立てることができた。支援の必要な子どもには、フリーの教師が一年間同じクラスに入ることで、支援の方法が一貫でき、また信頼関係を深めることができた。これらのことで、子どもが安心して安全に生活することができた。</p> <p>② 臨時休業中の分散登園で始まった良さを生かし、担任が一人一人とじっくり関わられるように努めたことは、その後クラスで過ごすことの安心につながった。また、入園時に例年に行わない対面式を行ったことで、新入園児と在園児が互いに関心をもち合えた。その意図的な関わりが、年上の友達に関心をもったり、年下の友達を支えたりする姿につながった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防のため、間隔を空けて過ごす生活を続けてきた。実際に相対して関わる機会は少なかったが、他クラスの友達がつくった物や写真で撮ったものを見せたり、数人の代表者に他クラスの話をもらったりして、心がつながるような関わりの工夫をすることを意識して取り組んだ。子どもたちはそのような状況を受</p>	

け入れ、守りながら、関わり方を主体的に工夫し、進んで友達に関わる姿が見られた。このように、月一回以上、他クラスや異年齢で交流を意図的にもったことで、1階と2階を自由に行き来して他学年の活動に関心をもったり、普段から積極的に関わり合ったりする姿が見られた。その中で、4歳児は5歳児に認めてもらい、自信となり遊びへの意欲が高まった。また、その経験の積み重ねが、3歳児にやさしく関わる気持ちへとつながった。

3、4歳児では週1回以上、5歳児では毎日、いろいろな場面で自分の思いや考えを出し合える機会をもつことができた。特に5歳児は、消極的な子どもも意見が言いやすいように少人数グループで、また、多様な意見から個々の考えが広がるようにクラス全員でなど、場に応じて形態を変えて話し合うことを積み重ねた。自分の思いと友達の意見を合わせてどのようにすればいいのかを考えたり、折り合いをつけたりし、認め合う様子がたくさん見られた。また、3、4歳児でも、自分の思いを伝えるようになってきたことで、友達の思いを意識するようになり、少しずつ受け入れることができるようになってきた。

5歳児では、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、2月にCAPを実施した。守るべき自分自身の人権について学ぶ機会となった。

保護者アンケートで、「他クラスや異年齢の友達と交流する中でお互いの思いを受け入れあったり、他者を思いやったりする気持ちが育ってきた」の項目で肯定的回答が92%となり、高評価が得られた。

- ③年間を通して、定期的にクラスの取り組みについての掲示物を毎月1回作り、安全の日の保育室帰りを活用し、保護者に知らせた。また、その後しばらくはテラスに全クラス掲示し、他クラスの取り組みも知らせられるようにしたことで、保護者も幼稚園の取り組みにさらに関心をもつようになった。子どもフェスティバル当日には、今までの取り組みに加えてフェスティバルに向けての取り組みもリズム室に並べて掲示した。また、幼稚園ウィークでの保護者の保育ボランティアの様子の掲示物も作った。写真と共に実施アンケートでの感想のコメントも一緒に掲載したことで、参加出来なかった保護者の方にも、どんな内容だったか知ってもらえる良い機会になった。また、年度末のアンケートでは「園の教育や子どもの育ちが、分かりやすい」の項目で肯定的回答が100%であり、保護者の理解が得られたことが分かった。

次期の改善点

- ①園内委員会や、普段から職員間で子どもの様子を話し共通理解に努めているが、育児短時間勤務で勤務時間が短い職員にも配慮し、今後も保育後などの時間も活用しながら、クラスの様子を伝え合えるようにしていきたい。
- ②来年度も引き続き、直接的なかかわりは難しいことが予想されるので、心をつなげるようなかかわりの工夫をさらに続けていきたい。
- ③今後も、保護者や地域の理解を得られるような取り組みを継続していきたい。また、その方法も色々と模索していきたい。

大阪市立真田山幼稚園 令和2年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>園の年度目標</p> <p>① 就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。</p> <p>② 子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領に基づき、今年度の状況や本園の実態をふまえて教育課程・長期の指導計画を考えていく。</p> <p>指標 幼稚園再開時の指導計画を考えていく。</p> <p>学期ごとに全職員で見直しを行う。</p>	B
<p>取組内容②【5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>主体的に活動する子どもを育てるための環境を工夫する。</p> <p>指標 学期に1回、実践をもとに、主体的に活動する子どもを育てるための保育が進められているか、園内研修会などを通して検討する。</p>	A
<p>取組内容③【7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>進んで運動遊びに取り組むような保育内容を工夫する。</p> <p>指標 体を動かす遊びについての年間計画を再編し、計画通り実践する。(別紙参照)</p> <p>学期に1回、進んで運動遊びに取り組める環境であるか検討する。</p>	A
<p>取組内容④【7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>健康な体と心を保つための生活習慣を身につけるための指導を工夫する。</p> <p>指標 学期に1回保健指導を行い、指導内容を工夫する。</p>	A
<p>取組内容⑤【5 健康に関する現代的課題の対応】</p> <p>保護者も共に体を動かす機会をもったり、運動することの大切さを伝えたりすることで、保護者啓発を推進する。</p> <p>指標 月1回の安全の日を設け、徒歩通園を促す。</p> <p>学期に1回、行事を活用し、親子で体を動かす機会をつくる。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①臨時休業期間に、幼稚園再開時の指導計画について、昨年度の教育課程を参考にして今年の実態に合わせて学年ごとに再考した。夏季休業中には、就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領と照らし合わせるとともに、新型コロナウイルス感染症予防の観点も踏まえて8月以降の指導計画を事前に見直した。また、冬季休業中に、2学期の指導計画について全職員で見直しを行う予定だったが、実施できていない。今後、職員に回覧を行い、年度</p>	

末までには見直しを行う予定であり、学期ごとに見直しができる。

②臨時休業の間に、新年度を迎えるにあたって教職員全体で主体的に活動に取り組む子どもを育むための環境について研修会を行うことで、共通理解を図った。9月はもも組で園内研修会を実施し、子どもが主体的に取り組む姿や今後どのような援助や環境の工夫をするかなどを話し合うことができた。10月には指導要請を受け、教育センターより指導に来ていただき、園内研究会を実施した。子どもの遊びの姿や援助の在り方、環境の工夫について話し合う中で、園全体で学ぶことができた。12月にはそら組が、1月にはやま組が園内研修会を実施し、子ども一人一人がどういった遊びに興味や関心をもっているのかを考えたり、子どもの実態や季節に合った援助の在り方や環境の工夫などを話し合ったりしたことで、園全体の保育力向上につながった。3月には、はな組が園内研修会を実施する予定である。また、学期に1回以上実践記録を作成し、検討会を実施することができた。それぞれのクラスの子どもたちの実態を知らせ合うことで、子どもが主体的に活動できるような環境を話し合い、工夫しながら保育を進めていくことができた。また、日頃から各クラスの遊びの様子を教職員全体で共有することで、5歳児が遊びをリードしながら異年齢で関わって遊ぶ姿も見られた。園内研修会や実践記録など目の前の子どもの姿を教職員全体で共有し、援助や環境を工夫していくことで、子どもたちが主体的に活動する姿につながった。

③年度始めに年間計画を再編したが、新型コロナウイルス感染により、行事がなくなったり、体を動かす遊びも計画通りには進められなかった。しかし、園庭、リズム室を活用し、感染予防に気を付けながら、存分に体を動かして遊びを楽しめる工夫をした。工事が入り、園庭も狭くなったが、遊具の置き場所や数を見直し、環境を整えることができた。運動会では、3、4歳児と5歳児が別日に行ったため、学年ごとに、子どもの実態に合った体操をすることができた。また運動会に向けて、5歳児は、各自が目標をもち、それに向けて頑張ることができた。また、リレーでは、クラスで作戦を考え合い、実践していくことが、意欲につながった。

暑い時期には熱中症予防、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえ、各自水筒を持ち運び、いつでも水分補給できるようにしたり、マスクを外して遊んだり、遊具を共有することを避けながらも楽しめるように、一人一人のリレー用バトンを作ったりと、安全な環境下で体力向上につながる環境を整えることができた。

寒くなると、鬼遊びやドッジボールの遊びを友達と工夫しルールを共有しながら、体を動かすことを楽しんだり、好きな曲をかけながらマラソンすることで、体があたたまる心地よさを感じたりすることができた。

以上のように学期に1回、進んで運動遊びに取り組める環境であるか検討しながら保育を進めることができた。

保護者アンケートで「幼稚園での生活を通して、進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」の項目で肯定的回答が100%だった。

④今年度は新型コロナウイルス感染症の流行があったため、感染症予防についてや手洗いについての保健指導を行ったが、視覚教材や、指導方法について年齢や幼児の実態を踏まえて、具体性と分かりやすさを意識して行うことができた。3学期の現在も幼児はマスクの扱い方や、丁寧な手洗いについて意識しながら生活している。このような幼児の姿が継続して見られているのは、保健指導後も担任教師や養護教諭が、日常的に声かけや指導を継続して行っているからであると考えられる。3学期は生活安全について、幼児の生活の実態を踏まえて保健指導を行っていきたいと考えている。学期に一回の保健指導を行うことができた。

⑤安全の日を活用しながら、徒歩通園を促してきた。体力がつくことや、交通の安全について意識を高めるなど、啓発の方法を工夫することで、徒歩通園を心掛ける姿が多く見られた。

1学期、2学期の終業式に、親子で楽しめる遊びを紹介することができた。また、紹介するだけではなく、遊びの中で、どのようなことが育つか知らせることができた。

3学期には、真田山グラウンドで保護者と一緒に体操やマラソン、凧揚げをし、広い場でのびのびと体を動かす気持ちよさを味わうことができた。

次期の改善点

①来年度も、新型コロナウイルス感染症予防の観点を踏まえながら、実態に合わせて月毎の指導計画を見直していくようにする。指導計画について全職員で見直しを行う機会につい

ては、なかなか時間を作れない場合があることを考え、全職員に事前に回覧したうえで見直しの機会を設けるなど、確実に実施できる方法を検討する必要がある。

- ②来年度も子どもの実態や自園の課題に合わせて、育みたい子どもの姿を明確にもち、よりよい援助や環境を工夫していきたい。
- ③次年度も年間計画をたて、運動遊びに進んで取り組めるように保育内容を工夫したり、環境を整えたりしていきたい。
- ④次年度も、幼児の実態や感染症の動向、保育内容や園行事などを踏まえながら、幼児が自分の健康に関心を持ち、自ら進んで取り組めるような保健指導を工夫していきたい。
- ⑤安全の日には徒歩通園を促すようにする。また、行事を通して親子で体を動かす機会をつくったり、家庭でできる遊びを知らせたりする。

大阪市立真田山幼稚園 令和2年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 園の年度目標 ① 色々な音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 色々な音や音楽にふれる機会をもち、豊かな感性が育まれるような保育内容を工夫する。 指標 学期に1回、子どもの感性が豊かになるような保育を工夫して行う。 学期に1回、教材について学ぶ機会をもつ。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 5歳児では、ピアノや楽器などいつでも触れられる環境を整えた。子どもの興味や関心、行事などに合わせて、楽器の種類を入れ替えたり、数を調整したり、環境を変えていった。そのことは年間を通じて、一人でまた友達と曲に合わせて鳴らして楽しむ姿につながった。歌については、歌詞の世界を体や製作で表現することで、歌詞の内容への理解が深まり、歌への関心が広がった。</p> <p>ソルフェージュなど、指導の工夫により高くきれいな声がだせるようになると、さらに歌うことを楽しむようになった。また、隣のクラスの歌を聴き興味をもつなど、クラスを越えて影響を与え合った。保護者や他クラスの友達やいろいろな先生にきれいな歌声を認めもらうことが自信となり、さらに歌声や表現の仕方がよくなった。</p> <p>4歳児では、2階に行く機会を意図的にもったことで、5歳児保育室へ遊びに行く姿が増え、いろいろな楽器や歌など、音楽的な環境への興味広がった。</p> <p>3歳児は、4、5歳児から仲よし遊びや身近な自然を取り入れた歌を教えてもらったことで、いろいろなリズム遊びや歌に関心をもつきっかけになった。</p> <p>その他、運動会では学年の段階に合わせた曲を選び取り組んだ。3、4歳児でも自由にCDデッキが操作できる環境を整えたことで、友達同士で音楽を聴き合ったり、リズムにのって体を動かすことを楽しんだりした。また、園庭や園外などの自然環境(雨音、風音、風で舞い散るイチョウの葉、ドングリなど)や自然の変化への関心を広げ、音楽的活動への刺激として取り入れた保育を工夫した。このように、学期に1回以上、子どもの感性が豊かになるような保育の工夫を行うことができた。</p> <p>教師間では、学期に1回以上、お互いに知っている歌、ダンス曲、見つけた年齢に合った曲、楽器の正しい扱い方や鳴らし方など、知らせ合う機会をもち、教材研究を積み重ねることができた。</p> <p>保護者アンケートで「色々な音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになってきた」の項目で、肯定的回答が99%の高評価であった。</p>

次期の改善点

- ①常にマスクをしていることで口元が見えず歌唱指導が難しいが、今後も現状を踏まえながら教材研究を進め、歌詞の意味を伝えながら、歌うことの楽しさを伝えていきたい。また、いろいろな楽器や歌に興味をもち、楽器を鳴らしたり歌ったり踊ったりして楽しむ子どもたちがさらに感性を豊かにしていける保育を工夫していきたい。